

貴金属投資の認知度は約7割、投資経験者は約1割

－ 貴金属投資に関する調査 －

楽天リサーチ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：森 学、以下「楽天リサーチ」）は、貴金属投資に関するインターネット調査を実施しました。今回の調査は、12月20日から21日の2日間、楽天リサーチ登録モニター（約220万人）の中から全国の30歳から59歳の男女計1,000人を対象に行いました。

■□ 調査結果概要 □■

【総括】

2011年9月6日にニューヨーク金先物市場が市場最高値を更新したことや新興国の金需要の高まりが予測されるなか、金をはじめとした貴金属投資の認知度は株式にも劣らない市場になっている。実際、貴金属投資の認知度をたずねたところ、「知っている」は66.8%だった。さらに、投資未経験者のうち、最低取引金額や投資コストが安ければ始めたいなど、何らかのサービスが付加できれば取引を始めたいと回答した方が、全体の44.5%を占める結果となった。

■約7割が貴金属投資の存在を「知っている」。うち取引経験者は約16%

貴金属投資に関する認知度をたずねたところ、貴金属への投資経験者が16.2%にも関わらず、認知度は全体の約7割（68.8%）を占める結果となった。ニューヨーク金先物相場が2011年9月6日に市場最高値を更新したことや貴金属類の買い取りサービスの普及により、報道を通じて金の換金などを目にする機会が増えたことが認知度向上につながったものと分析する。

■現物購入派と積立派の半数以上が、「日本株式」と「定期預金」にも投資

貴金属の投資経験者の半数以上は「日本株式」は57.8%、「定期預金」は51.1%と、分散して投資する傾向にある。一方で、「CFD（2.2%）」や「株価指数先物・株価指数オプション取引（1.1%）」などの高レバレッジの商品は、貴金属投資との親和性が低い結果となった。

■現物購入派の投資額、100万円未満が7割超。半数近くが増額の意思あり

現在、貴金属に投資している金額を聞いたところ、10万円未満が全体の約半数（46.7%）、10万円以上50万円未満が20.0%と、小口で投資する人が多くを占める結果となった。一方で、現物の貴金属を投資している方の半数近く（44.5%）が投資額を増額したいという意思を示している。

■積立の理由、トップは「資産形成のため」。積立額は1万円未満が約半数

貴金属を積立投資している理由を聞いたところ、過半数が「資産形成のため（51.1%）」と回答した。一方で、「資産の一部として貴金属を保有するため（33.3%）」や「宝飾品への交換目的のため（11.1%）」に積立を行っているなど、貴金属の商品性ならではの回答も散見された。

■投資コストや最低取引金額が下がれば積立を始めるという人も

貴金属への投資未経験者の中には、投資コスト（22.9%）もしくは1回あたりの最低取引金額（26.4%）が下がれば、積立投資を始めたいという結果になった。この他、「インターネットで取引できるようになったら始めたい（21.6%）」や「証券会社や銀行等すでに口座を持っている金融機関で取引できれば始めたい（13.6%）」といった取引の利便性が投資のきっかけになるという意見もあった。

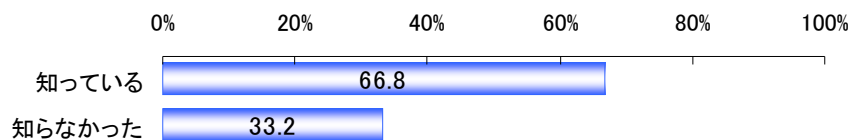
■□ 調査結果 □■

■約7割が貴金属投資の存在を「知っている」。うち取引経験者は16%

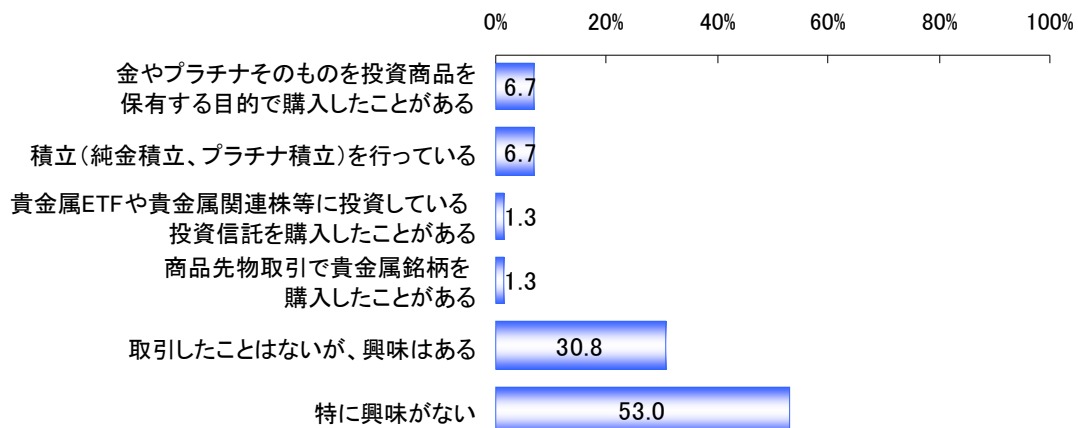
貴金属投資という投資方法があることを知っているのは、全体の約7割（66.8%）。そのうち、投資を目的とした貴金属の取引をしたことがある方は16.2%だった。取引の具体的な内容は、「金やプラチナを投資商品として保有する目的で購入したことがある」、「積立（純金積立、プラチナ積立）を行っている」がともに6.7%、「貴金属ETFや貴金属関連株等に投資している投資信託を購入したことがある」、「商品先物取引で貴金属銘柄を購入したことがある」と回答した方はともに1.3%となっている。

ほかに、「取引したことはないが、興味はある」という回答が30.8%、「特に興味がない」が53.0%あった。

◇貴金属の投資の認知度（n=1,000） 単位：%



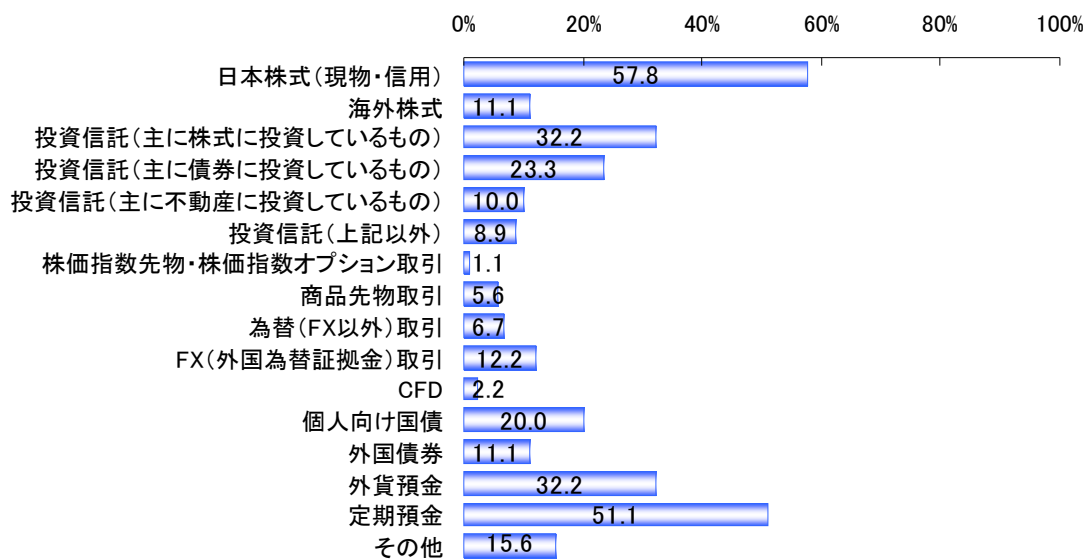
◇投資を目的とした貴金属取引（n=668） 単位：%



■現物購入派と積立派の半数以上が、「日本株式」と「定期預金」にも投資

上の質問で、「金やプラチナを投資商品として保有する目的で購入したことがある」と答えた“現物購入派”と「積立（純金積立、プラチナ積立）を行っている」と答えた“積立派”に、ほかに現在投資している金融商品についてたずねた（複数選択）。最も多かったのが「日本株式（現物・信用）」で57.8%、以下、「定期預金」（51.1%）、「投資信託（主に株式に投資しているもの）」「外貨預金」（ともに32.2%）と続いている。

◇現在投資しているその他の金融商品（n=90）複数選択 単位：%

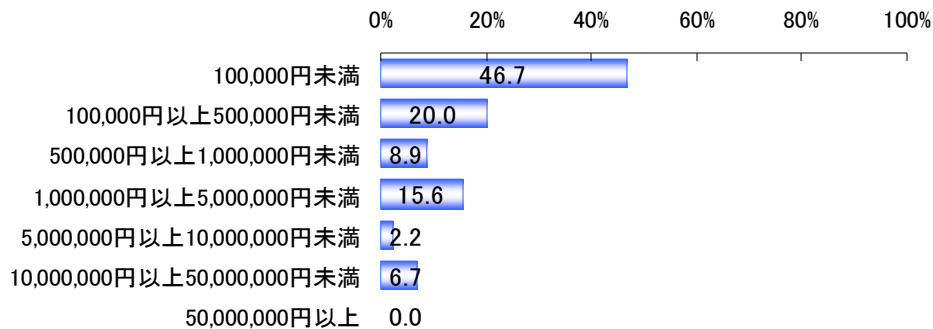


■現物購入派の投資額、100万円未満が7割超。半数近くが増額的意思あり

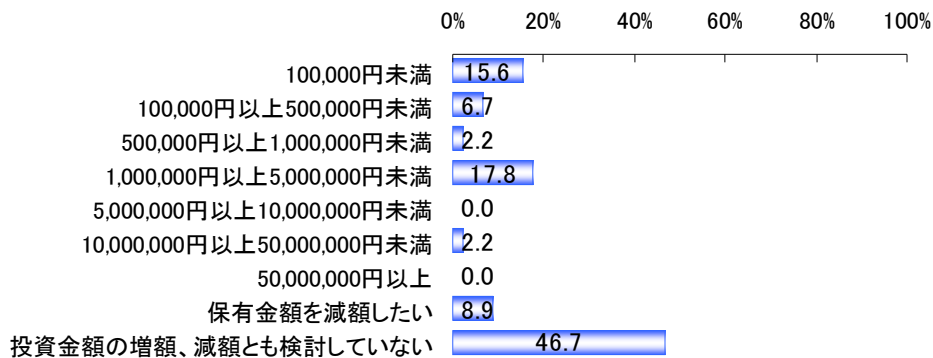
さらに、“現物購入派”に貴金属に投資している金額について聞いたところ、「100,000円未満」（46.7%）がトップで、「100,000円以上500,000円未満」（20.0%）、「1,000,000円以上5,000,000円未満」（15.6%）がそれに続いている。投資金額100万円未満は、全体の75.6%を占める結果となった。

同じく“現物購入派”に「今後投資金額を増やしたいと思いますか。また増やすとしたら、全体で投資金額をいくらぐらいにしたいとお考えですか」と質問したところ、具体的な増額金額を選択した方の合計が44.5%となった。増額後の金額で最も多かったのは「1,000,000円以上5,000,000円未満」で17.8%、「100,000円未満」（15.6%）、「100,000円以上500,000円未満」（6.7%）がそれに続いている。

◇現在貴金属に投資している金額 (n = 45) 単位：%



◇投資額の増減と増額後の投資規模 (n = 45) 単位：%



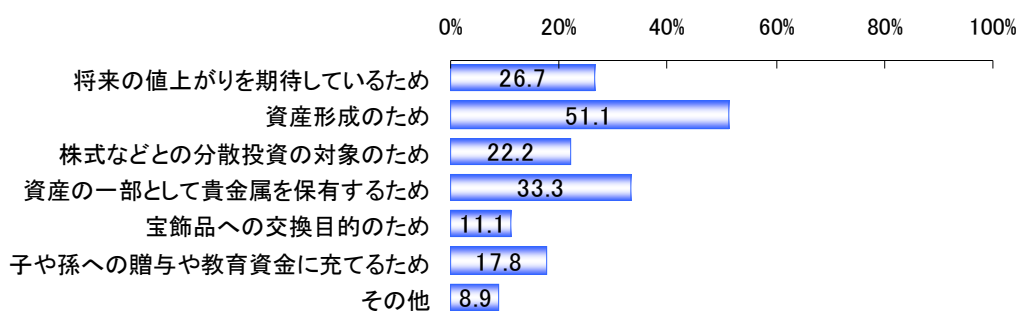
■積立の理由、トップは「資産形成のため」。積立額は1万円未満が約半数

続いて、“積立派”に、貴金属で積立を行っている理由を尋ねた。結果は、「資産形成のため」が過半数（51.1%）でトップ、続いて、「資産の一部として貴金属を保有するため」（33.3%）、「将来の値上がりを期待しているため」（26.7%）という結果となった。

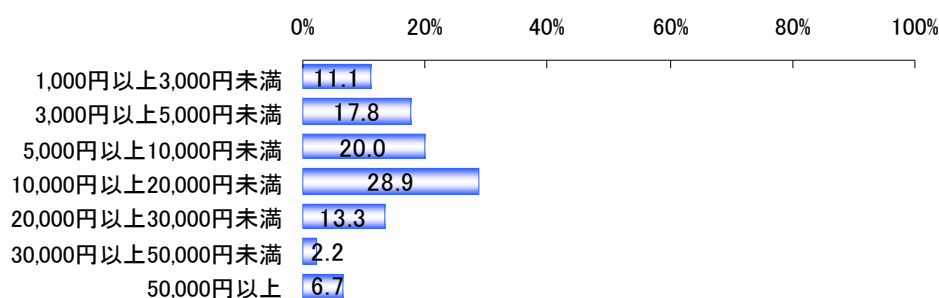
1カ月あたりの積立額で最も多かったのは「10,000円以上20,000円未満」（28.9%）。以下、「5,000円以上10,000円未満」（20.0%）、「3,000円以上5,000円未満」（17.8%）などとなった。1万円未満が約半数（48.9%）となっている。

さらに、“積立派”に、今後の積立額増額の意思と、増額後の投資規模についてたずねたところ、積立額を増やしたいと考えている人は35.6%、増額後の1カ月あたりの積立額は、「5,000円以上10,000円未満」「30,000円以上50,000円未満」がともに8.9%、「10,000円以上20,000円未満」「50,000円以上」がともに6.7%などとなった。

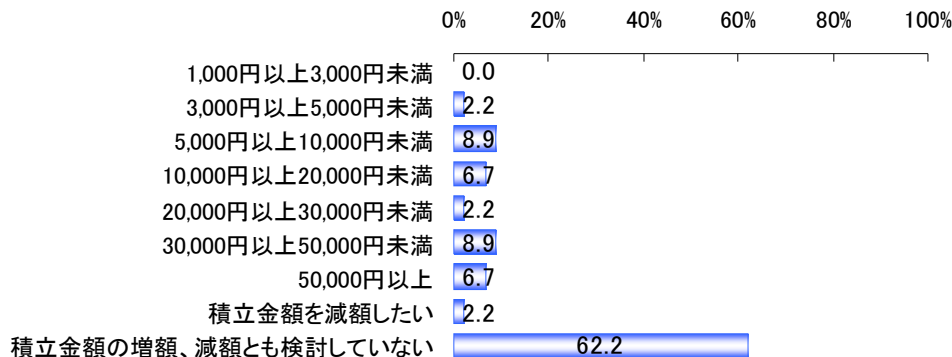
◇貴金属積立を行っている理由 (n = 45) 単位：%



◇1カ月あたりの積立額 (n = 45) 単位：%



◇積立額の増減と増額後の投資規模 (n = 45) 単位：%

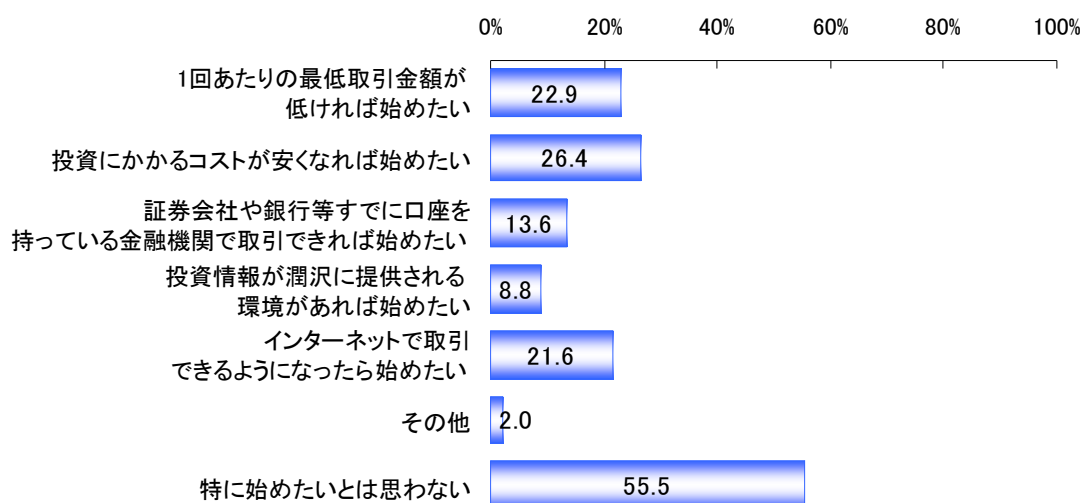


■投資コストや最低取引金額が下がれば積立を始めるという人も

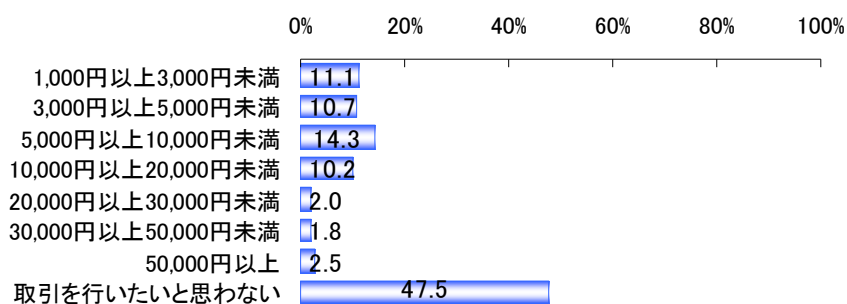
冒頭の質問で「取引したことはないが、興味はある」、もしくは「特に興味がない」と答えた方に、どのようなサービスがあれば純金・プラチナ積立を始めるかを聞いたところ、「投資にかかるコストが安くなれば始めたい」が26.4%、「1回あたりの最低取引金額が低ければ始めたい」が22.9%、「インターネットで取引できるようになったら始めたい」が21.6%などとなった。一方、「特に始めたいとは思わない」という回答が過半数（55.5%）となっている。

さらに、純金・プラチナ積立を始める場合、1回の取引額がいくらなら取引したいと思うかをたずねた。結果は、「5,000円以上10,000円未満」が14.3%でトップ、以下、「1,000円以上3,000円未満」(11.1%)、「3,000円以上5,000円未満」(10.7%)、「10,000円以上20,000円未満」(10.2%)などとなっている。

◇どのようなサービスがあれば純金・プラチナ積立を始めるか (n=560) 単位：%



◇1回の取引金額がいくらなら純金・プラチナ積立を始めるか (n=560) 単位：%



【調査概要】

調査エリア : 全国
 調査対象者 : 30歳から59歳の男女
 回収サンプル数 : 1,000サンプル (性年代均等割付 各セル125サンプル)
 調査期間 : 2011年12月20日から21日
 調査実施機関 : 楽天リサーチ株式会社

◆◆◆関連サイト◆◆◆

■**楽天マネーサービス** URL → <http://money.rakuten.co.jp/>

楽天が提供する金融サービスをワンストップでご紹介。また、楽天カード、楽天証券、楽天銀行ほか、多数の金融機関の口座情報が楽天会員IDとパスワードだけで一覧表示できる「口座管理サービス」も提供中。

以上

【お問い合わせ先】

楽天株式会社 広報渉外室 広報課 (担当：高田)
 TEL : 050-5817-1104 Email : pr@mail.rakuten.com